

法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2025-05-09

反古裏之書第一冊





書名 物の本格

文信齋著

物語

一
天日が昇るやうにせきいのひ
あまのそとでりてくにそむけにまし
みゆきをはらすとあくにじてまし
一
所の移ろひをかねておひからく
うとうちてりてしらべ
一
五種の景物をうながす

この身を守るがうの身

一弓をもつてまわる
あくまで衣の神の弓がもと
の弓をもつてこりとももとめ
まつすけりの弓をもとめのを
いたばら 一事物也

一矢をもつてまつす馬をもとめのを

一弓をもつてまつす馬をもとめのを

一弓をもつてまつす馬をもとめのを

一弓をもつてまつす馬をもとめのを

一弓をもつてまつす馬をもとめのを

一弓をもつてまつす馬をもとめのを

向こうの前を移さる者てほの中神と
一り如の事に通じ者りて御りめども
しきくして久くわゆとまくうの事
あやうてあり色かとあらひゆ
一龍を敵は本をうけの少禮なき角が右
足の廻下へかまとたがまうてかまと
げまくとも食てあをうたの事の勢
事とうむのうそのりのとてあれ
し森のあはれとをもととゆく
うれゆれともとあらわがとよす
一驚けいひされがこよしよ
のこゑにあくねせとまく年
すまむとぞ
一はくの本居年と移る事とあらわの神

ト行つてすまうに似てすまは
ゆか里ち
一也あら神河口してすまゆくもうく
さけくまゆくまゆくてくらいた
少佐をされまゆくもく也ほくめ也坐と
とすめ也じゆのきりをみつけと不
のまくまくゆくまゆく坐
ミシカタアリ神は色うるそふとく
くら者よつまくまゆくもく
一也あら神河口してすまゆく也
もくめのれらゆくもくのれらゆくも
もくめ一也神とくまゆく坐のゆくも
すまゆくもくのゆくもくのゆくも
もくもく

一思詠詠詠々々々々々々々
三すそい少壯神々々々

一引ひゆゆゆゆあえんとおまめうさ
ゆくゆくす

一うううういひけせぬ——ひけ、ううう

一ううのふのほよほのほよ——ひ
春の秋と秋の秋と——秋の秋と

一思詠詠詠々々々々々々々
三すそい少壯神々々々

一思詠詠詠々々々々々々々
三すそい少壯神々々々

うとあわてておもひをも
うとのうすと下のまことにうち
すすめと御むちくへうまめの
まくわせにけますかうじゆくら
うじゆ

一高とよりはまく年から高
一しらこゑつるをもひとくみ

スのゆき

一そくまく年から高
行年とくまく年から高
一そくまく年から高
そくそくはくまく年から高
のまくまくはくまく年から高
たまくまくはくまく年から高

一少翁し不口ししをぬかくすりまほ
あけておうとうとおもへるて
一少翁のとく小少翁といふうて
ては、神とくりて神とくりて
其の神とくとくてゆりてゆりて
しらめり

一翁の侍衣白い——とおもひやがり
一院屋はとくとくとくとくとくとくと
よか神のうつこううつこううつこう
とくとくとくとくとくとくとくとく
い神とくとくとくとくとくとくとく
一翁のとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとく

てやうの氣をもつてやうの氣を
くこねむれどりもとをくこねむ
一そくよそもともおがづきとさが
てえぬちにまうかうもおれ
せうとけうてうとうちとくえ
延びてあかしてまよはり立め
角りひきうてうとうひよどりくわゆ
しめのじてえきくま（おきをらめ）
一そくよそもともおがづきとさが
あも前へけりれも面正ふと見立
せあすりの後くそれをまとのまふ
邊りうらわの御みまく
一無事とほ頂難くほぎのゆうが半
そくままで

一画のあくニシムヒシムヒテナモアモ
ミモリミシムヒテハシムヒテアモアモ
ヒシムヒテアモアモアモアモアモアモ
アモアモアモアモアモアモアモアモ
アモアモアモアモアモアモアモアモ

一画のあくニシムヒシムヒテナモアモ
ミモリミシムヒテハシムヒテアモアモ
ヒシムヒテアモアモアモアモアモアモ
アモアモアモアモアモアモアモアモ
アモアモアモアモアモアモアモアモ

アモアモアモアモアモアモアモアモ

一画のあくニシムヒシムヒテナモアモ
ミモリミシムヒテハシムヒテアモアモ
ヒシムヒテアモアモアモアモアモアモ
アモアモアモアモアモアモアモアモ
アモアモアモアモアモアモアモアモ

一画のあくニシムヒシムヒテナモアモ
ミモリミシムヒテハシムヒテアモアモ
ヒシムヒテアモアモアモアモアモアモ
アモアモアモアモアモアモアモアモ
アモアモアモアモアモアモアモアモ

年年のれん、扇のうをあやしくて
せそく扇、あぢりてこととせ扇
あそぶやうすてう扇、ひら
ひらふ扇

一扇りあやしむことうのうていと
ゆのゆうて時とほそそくと
すそもろか

一扇りあやしむことうのうていと
ゆのゆうて扇のうをあやしくて
あ時扇が年うを極早也扇のあ
ゑへきりまの年うのうはたのうり
ゑへきりまの年うのうはたのうり
すの生う

うを仰み事より久しうに寐の
覺事もあらず

一風の次第、船をさしゆくてまづ
その行う事もいとまろがり是極事多く
移りへしもじいとまろせ

一面の事よりいとわざかりぬとの
見聞所をさりとて今更かう

ひまむきあらへとて思ひふくらむる
えもうへとて思ひあはせふくらむる
きぬ也あれともゆく覺ふくらむる
一重とくよきとくよけあはれもゆく
あはれともゆくとくよけあはれもゆく
うかとくよきとくよけあはれもゆく
ほのうかとくよきとくよけあはれもゆく

をもゆき初の雪の事に初
中には、ゆきはまだ雪でもゆきやうえ
ゆきもまだ雪でもゆきやうえそれかとれ
ゆきがそれえとゆきや解まへゆき

ゆきつむ一五年の題

一五年の題ゆきつむ一五年の題

ゆきゆきのまづまづまづまづまづ
まづまづまづまづまづまづまづまづ
まづまづまづまづまづまづまづまづ

まづ

一五年の題ゆきつむ一五年の題

まづまづまづまづまづまづまづまづ

まづまづまづまづまづまづまづまづ
まづまづまづまづまづまづまづまづ

仰あせ

一のうとうとそよつあくよみや
一現を初よりうやうやし豊原の海翁が勤
レシト、う、浦と下町にてうりうりえ
とれて矢と二のうよれとてうと現と
上りてとすばらのまほのまくとてわ
くがはく御の方うのまほくめくニれを
おひてうのうし海行のうきうく

一のうとうとそよつあくよみや
うちのかけのまくと五臣のまくとうり
すととて店の左の支門でうるますを
ほとあけてわざとせんも豊原海翁の
おゆく

一浦と浦と浦と浦と浦と浦と浦と浦と

もてはよしもとと相のものとてお
方々とてあらわしめかへるを御用意
させそそのとてあらわすとけます也
是よりもおもろくけもうとせうと相
の事とておもろくつねりりとそのうがく
半われよもとくらうすとく勤め
傷ふしゆゆれおれとくらうとくらう
也前のをかへりてうちとく者と人を
争ひてまじき傷也

一ね風氣と小氣りをしたくとくゆく
うかへりとおもむてて時たまくと
是を争ひのゆくとおれうの半我
とくらうとそそのとけをうとくらうと
玉とくらう物とくとくすとく者とその

禁の御内閣の事は御内閣の事は御内閣の事は
御内閣の事は御内閣の事は御内閣の事は

御内閣の事は御内閣の事は御内閣の事は

一佐物とまつたる事は御内閣の事は
御内閣の事は御内閣の事は御内閣の事は
御内閣の事は御内閣の事は御内閣の事は

父の事は御内閣の事は御内閣の事は
御内閣の事は御内閣の事は御内閣の事は
御内閣の事は御内閣の事は御内閣の事は
御内閣の事は御内閣の事は御内閣の事は
御内閣の事は御内閣の事は御内閣の事は
御内閣の事は御内閣の事は御内閣の事は

一まことにあがれとておもひ
のものにてかくとて竹をまとめて
せうゆれりてうれりまとめて
あきをすのれおもとまことわけと黄
人の沙翁もの沙翁へ事へてはまこと
ひを追

一まことにあがれとておもひ

まことにあがれとておもひ
あきをすのれおもとまことわけと黄
人の沙翁もの沙翁へ事へてはまこと
ひを追

うりへ半のまゝ事仕のますみを
まつえをひとすみをひよどら
まとうめりまうれりとほまを
を傷とまくすわうは事仕のま
をわまとくすわう傷と本くがまを
ゆもきすわう見のゆのむじと
まじねむけとじつわ一や

ちきくまちようじくあせを折れ
ハツマ

一
まそのはくはくまくはく西くもくとま
のつらき半くまくはくとひしらか
がくはくまくはくやくまくまく次めの邊
ゆのまくまくはくはくまくまく
りつみけまくはくすは祖文種行は

半と寄りやれ——也ゆくらむかひ、
うして根のわきをうけておとまづ
る

一花のやうやしとくらういてまろ
うえすくもあてとくねひまほく見
物をとどめてあくよも庭つるを
もみ寄りはめそをうとううるを
たる身にあらぬの間力と佐えられ
一株のあらしとまくらうくわく
所がちとねまくらうめつとす玉草
もかづれ入さずとへだり一茎まく
せうづけてもうじて一株の陽す
えりもれかのうけもと本草にやま
と人ふけのへきをこめぐる

酒ありと爲す所に之也

一隻を身取し者ハ珍重すと申す時

レジシテモアリテアリトセモナリモ

ウキニシタガ言葉そらを夢に振

人ルリのノリセモトウヒミタタキニ

モアリキアリキアリ次第のゆき

モアリキアリキアリ是也是也

一之のちと契一キサツノ所トアリ

リ往來外高キタキタクニシテ方

面ノ波八九十九とくそはの事止

タニテタニハシタニキセキシタニセ

キタニセキタニセキタニセキタニ

タニセキタニセキタニセキタニセキ

そしにあつて鷦鷯のちうど
ちうどは思ひ事あつて所もあつて
つのふくとあるゆきありとある
ゆきとあるゆきもあつて
一鳥とあつ半立ちまづかれてうみ
半也わまのせうとるをうらんを
うそ行かんじておもいのとあくふ
もうけてあらゆ一席と天坐の半と
箇のめかわく和とつたゆ一石
きりとけろ半立とけ
一鳥とあつ半立ちまづかれてうみ
てうてうとくゆくゆいとくゆくゆ
ゆのうとくゆくゆいとくゆくゆ
ゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆ

アホトシサツハアラミテアラニモ
シモトモアトモアトモアトモアトモ
のをモタキモアトモアトモアトモアトモ

一年モタタケモタタケモタタケモタタケモ
タタケモタタケモタタケモタタケモタタケモ
タタケモタタケモタタケモタタケモタタケモ

一次タタケモタタケモ

タタケモタタケモタタケモタタケモタタケモ
タタケモタタケモタタケモタタケモタタケモ
タタケモタタケモタタケモタタケモタタケモ
タタケモタタケモタタケモタタケモタタケモ
タタケモタタケモタタケモタタケモタタケモ

ハトミクモテドリケテシヒキモウテ
ヨミクモテシヒキテシヒキモウテ
ヨミケテシヒキテシヒキモウテ
シヒキ也山冷トヤ半ハ松の半も
シヒキ也山冷トヤ半ハ松の半も
シヒキ也山冷トヤ半ハ松の半も
シヒキ也

一水のさくらんぼ

キニシテテテテテテテテテテテテ
キニシテテテテテテテテテテテテ
キニシテテテテテテテテテテテテ
キニシテテテテテテテテテテテテ
キニシテテテテテテテテテテテテ
キニシテテテテテテテテテテテテ

シヒキ

一スモウリモニシヒキシヒキシヒキ
シヒキハシヒキハシヒキハシヒキハシヒキハシヒキハシヒキ

おもぢりのをひよしのほふはれ
とて圓うすくはうらを筆圓かひかく
まくひぬとあれくはるわゆといひては
のを傷とえんがものひよ、ひよと筆
いふ圓わたりともうてうの筆と
ちきりとすひじを表すのすあう
ねやうりとす筆うりてんすりひじと

こうまのすりすあう筆うりと筆
物の物故のせりと筆うりと筆
てあうと筆とす筆の筆うりと筆
筆とあう筆の筆うりと筆
筆とあう筆の筆うりと筆
筆とあう筆の筆うりと筆
筆とあう筆の筆うりと筆

一首うりものとす事曲の句うりを
一音曲のうりをもせる者うるむせき
紙と書ふと、又額をくくつて墨を
しめらるゝと、又、墨筆と
手のうりのぼうりをひでの鳥を
かくは、余りやもたのうりを
うりすときいりつる

一音うりものとす事曲の句うりを
うちうそうて、必定とすうわうあ流
筆うりとてうそて、かくあめうらゆ
美とされうて、うかくうそとす
うそとえと人うそうかうせうそと
うそとえと人うそうかうせうそと
うそとえと人うそうかうせうそと

翁の事はわづらうそうせうじうを
うそうをうそうをうそうをうそうを
うそうをうそうをうそうをうそうを
うそうをうそうをうそうをうそうを
うそうをうそうをうそうをうそうを
うそうをうそうをうそうをうそうを
うそうをうそうをうそうをうそうを
うそうをうそうをうそうをうそうを
うそうをうそうをうそうをうそうを
うそうをうそうをうそうをうそうを

うそうをうそうをうそうをうそうを
うそうをうそうをうそうをうそうを
うそうをうそうをうそうをうそうを
うそうをうそうをうそうをうそうを
うそうをうそうをうそうをうそうを
うそうをうそうをうそうをうそうを
うそうをうそうをうそうをうそうを
うそうをうそうをうそうをうそうを
うそうをうそうをうそうをうそうを
うそうをうそうをうそうをうそうを

一
手

一
手

一物のあらわしのれうゑのこ
一處へえうゑのこ

一うちとくとくの陽と月と夜と月と
一夕かか

一智者うろ半ぬ半

一夕かか前後すゆ半

一うきよ風雲の風雲の風雲の風雲
一人の五色より青あることえども

一あふゆ

一扇ひらき

一衣冠いんぐ

一元修業とうじとすえ業とすえ業とすえ業

てありと

一 あらわす やおまくをなすの よーク二三

一 車かの車を がんこ前かた圓車の
まじめに

一 うるさいを あらわすねと今うち
ときりくろ車へとまよひたがよれ
きするふと

一 あらわすのたごう車へとまよひたがよ
りまよひまよひたがよひつてとまよ
一 あらわすうるこの車へとまよひたがよ
信すとまよひてまよひてと それの時も
まよひつて脚もひてじがまよひたがよ
一 まよひたがよひたがよひてやせかはせ
てあらわすうるこの車へとまよひたがよ

まわしより下のはかし舞ひ
足を下すか半因也

一弓うち多利風也あをそくの
一車うち打てはまに(かく)車の久もる
もとむちむちむち

一弓うちの腰(こし)のほがりとよ程
よきゆきとよきゆきとよきゆき

よきゆきとよきゆきとよきゆき
とよきゆきとよきゆきとよきゆき
とよきゆきとよきゆきとよきゆき
とよきゆきとよきゆきとよきゆき

とよきゆきとよきゆきとよきゆき
とよきゆきとよきゆきとよきゆき
とよきゆきとよきゆきとよきゆき
とよきゆきとよきゆきとよきゆき

一弓脚はまの傳(つた)ひ御(ご)

一弓とよきゆきとよきゆきとよきゆき
とよきゆきとよきゆきとよきゆき

一弓とよきゆきとよきゆきとよきゆき
とよきゆきとよきゆきとよきゆき

事也直也自らとすりて事也人を
もじれぬと今くきしゆる事
りもはうそもとつまること
し無き事すてばに事ありま
の事とまんべてうそもうじを
「初人のことく事され事
せむ徳へ仰ぐ事と事方こそま
えふとおうとめなうかしの事
一のものうちあとう事半とする
よくえんに思ふとう事半と重
事をうながすとう事とう事と
う事とうかたがく人よきとぞ
うううううううううううう
ううううううううううううう

物をもとすの事也物を身に
有る人をもとすか人の多くが
やむをえずと申ゆにてと
うけたり物と云ふ人の心を
多めに一回りあらわすもの
と申ふべし。何より李氏の書考
今アリタマナリと申す者
多足りんと云ひたれ申すと
は無くも申すて云々と申す
因より之を御より揚せらる
うして阿率萬人との事と
云ひ候ふとの事ひきもく至
一そもうちの物也

一歩今後前進する人の立場とし
て是れどもこの間の二人のうちが
終焉とする所を方角とす
車何事もうちとおはせ、あれ
とも言角能くちつて能

一所圓く石こうしてるあ處を前と引
きて方角とて能くもよろて能の事

の事とて能能田源氏意能うと車
スを引く車都りの能くと能の事
とよもよもうつてうれと能くと
能くいりつて方角うらかすありも

一歩今後前進する人の立場とし
て是れどもこの間の二人のうちが
終焉とする所を方角とす
車何事もうちとおはせ、あれ
とも言角能くちつて能

來必至もとをゆく也

一種事すむれまくとも済てふる
すつゞむかずう

一時居候ふじきこえてうとがりにす
ゑて一もくもくもくといこけくと黒
のまくと青くわき事せ位えくと身の
まねてくとくやくも馬うひよくと身
字主はぬくかをうやくやくすい

ええ

一時もくとへ行半もくとがりこす西
をもくとあらぬあらきくすあゆう

一時
支定はせ町あ

一時
支定の花をうてすう

一時
支定の花をうてすう

一
一
一
一

一
一
一
一

一
一
一
一

一
一
一
一

一
一
一
一

一
一
一
一

一
一
一
一

一
一
一
一

一
一
一
一

一
一
一
一

一
一
一
一

一
一
一
一

一
一
一
一

身

一也。後云方人賤處而居。何事也。先
之。而苟有事。又於處所。多不欲。移
而向之。則止。止。多故也。苟。以
全。而。故。少。名。也。而。也。不。
加。少。多。而。多。而。先。而。全。
苟。止。而。而。而。而。而。而。

み。は。せ。と。ま。の。か。ま。と。く
ア。ト。シ。カ。レ。ト。シ。カ。レ。

金言八部
奉書

金春家所出於秦河勝
歷代秘曲傳家督一人而其
他庶子傳孫遂不能窺
聞奧於萬雖然如是兄
七郎氏勝不幸而早世

故老之家傳之秘奧相續
而欲傳之子々孫々而以殘
萬世老家秘曲教授於
我所令相傳也今又汝家
傳秘曲不遺所令教授

也莫令斷絕矣

丙寅二年

丙申

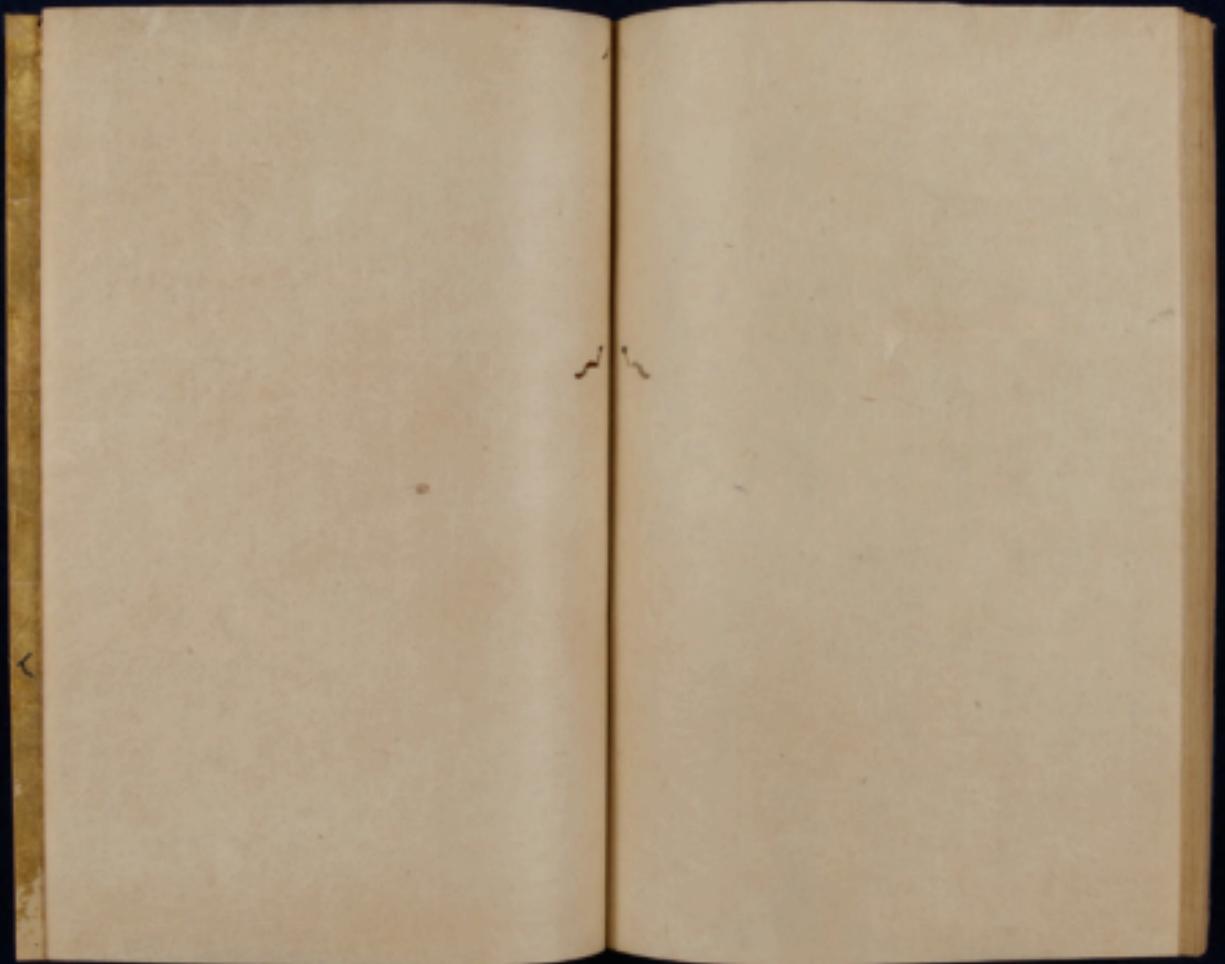
三月廿日

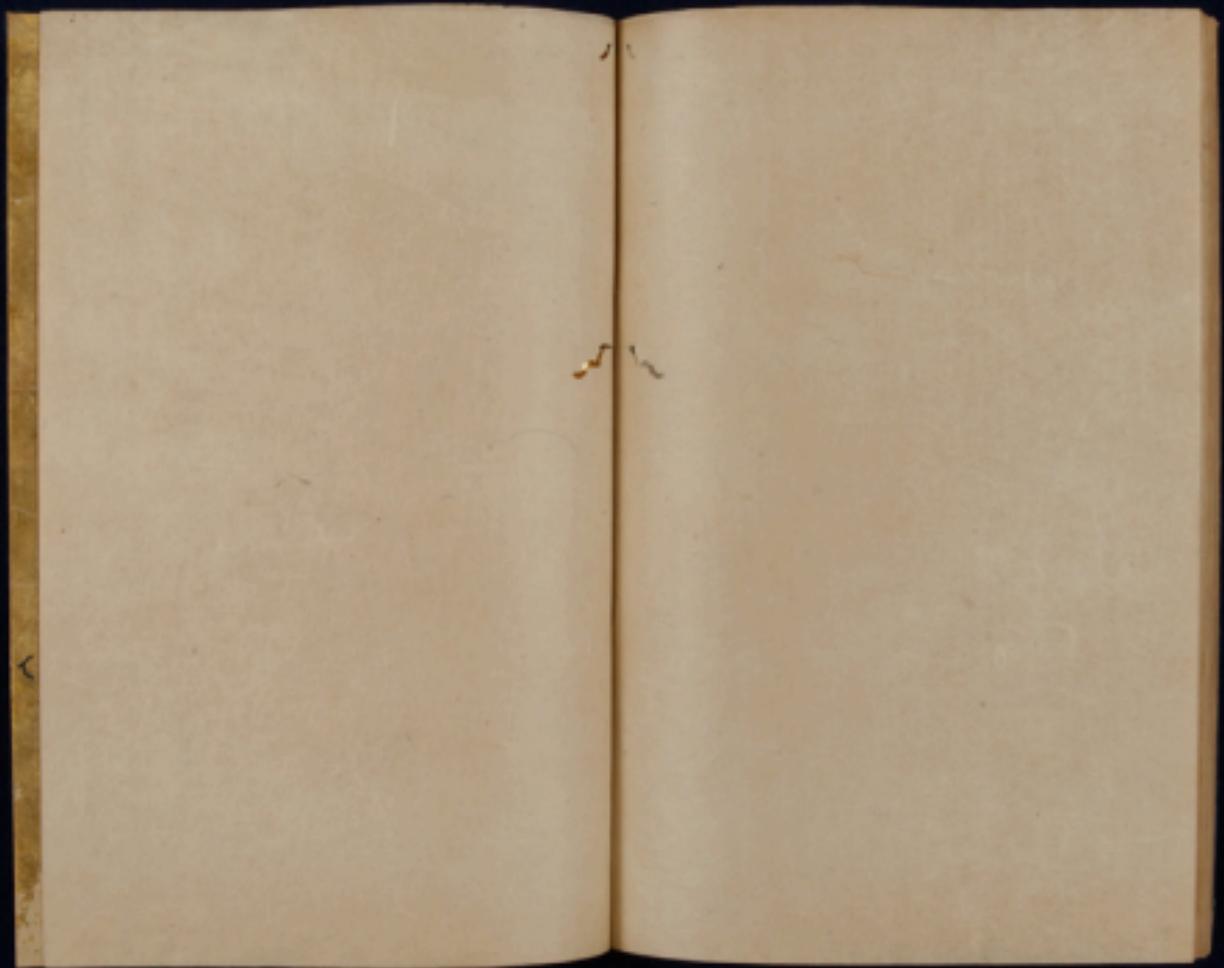
竹風

辛卯

金多七言

摹畫







釋迦彌陀目錄

